

三重県の地震活動（令和4年10月）

令和4年11月21日
津地方気象台

【概況】

今期間、三重県内の震度観測点で震度1以上の地震を2回観測しました。

- ① 和歌山県南部（1日8時42分、M3.8、深さ28km）を震源とする地震により、紀宝町で震度2を、熊野市で震度1を観測しました。
- ② 三重県北部（27日13時09分、M3.6、深さ15km）を震源とする地震により、三重県北部で震度2～1を、ならびに三重県中部で震度1観測しました。

【震央分布図】（深さ0～500km、M0.5以上）

2022.10.1 00:00 — 2022.10.31 24:00

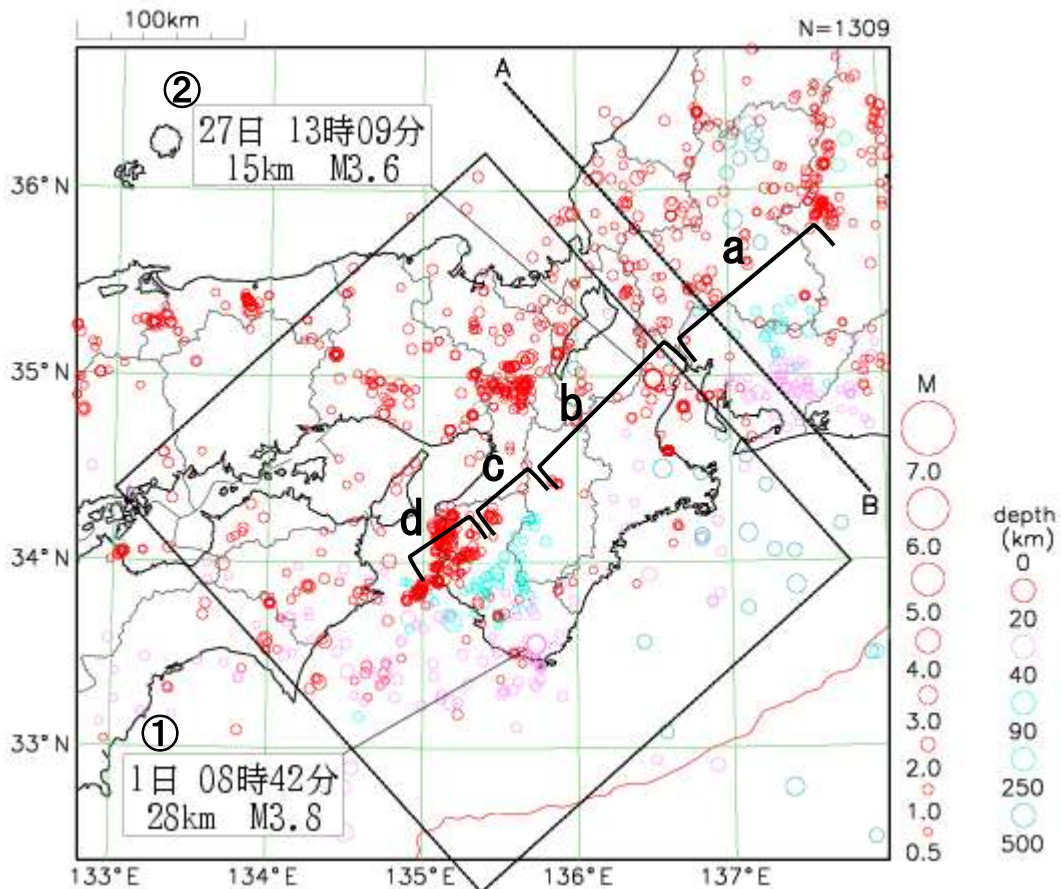


図1. 10月の主な地震活動

図中のa、b、c、dの黒枠で示す領域で、深部低周波地震を観測しました。
（詳しくは、後述の【深部低周波地震の観測状況】を参照下さい。）

【断面図】



図2. 震央分布図の矩形内の震源
測線（A-B）の鉛直スクリーンに投影してプロットしたもの

【県内で震度 1 以上を観測した地震】

- ① 和歌山県南部（1 日 8 時 42 分、M3.8、深さ 28km）を震源とする地震により、紀宝町で震度 2 を、熊野市で震度 1 を観測しました。

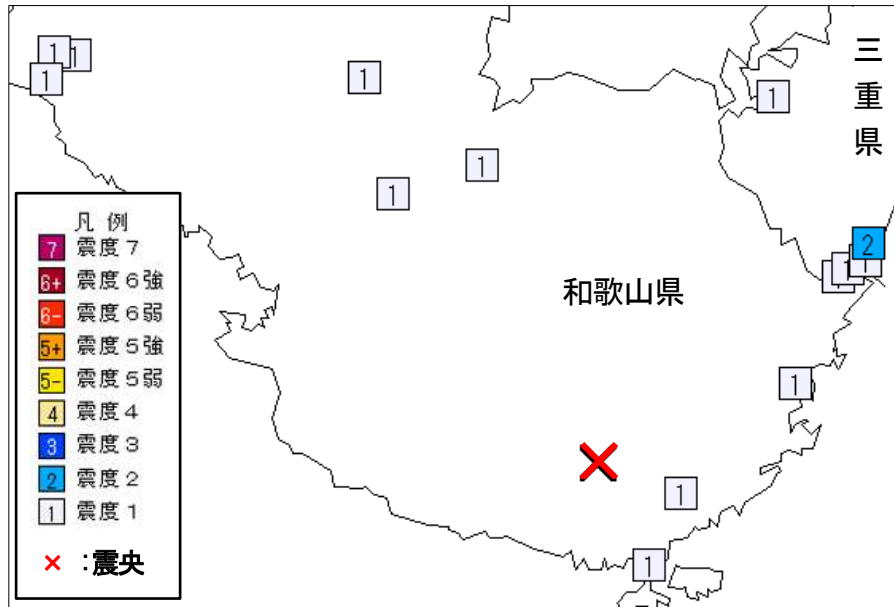


図 3. ①の地震の観測点震度分布図

- ② 三重県北部（27 日 13 時 09 分、M3.6、深さ 15km）を震源とする地震により、三重県北部で震度 2 ～1、ならびに三重県中部で震度 1 を観測しました。

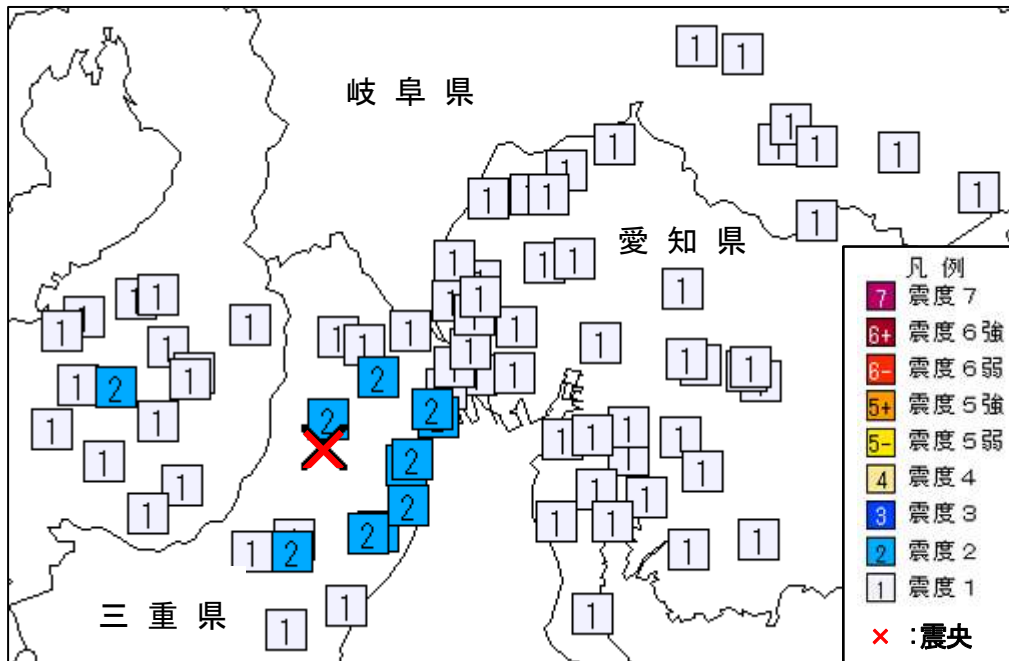


図 4. ②の地震の観測点震度分布図

【県内地震表（震度1以上）】（*印のついている地点は地方公共団体または防災科学技術研究所の観測点）

番号	震源 日時分	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	最大震度(全国)
		各地の震度					
①	1日08時42分	和歌山県南部 三重県	33° 33.6' N	135° 43.9' E	28km	M3.8	2
		震度 2 : 紀宝町神内* 震度 1 : 熊野市紀和町板屋*, 紀宝町鶺殿*					
②	27日13時09分	三重県北部 三重県	34° 59.1' N	136° 30.0' E	15km	M3.6	2
		震度 2 : 四日市市新浜町*, 四日市市諏訪町*, 四日市市楠町北五味塚*, 鈴鹿市西条, 鈴鹿市神戸*, 東員町山田*, 菰野町潤田*, 三重朝日町小向*, 川越町豊田一色*, 亀山市本丸町* 震度 1 : 桑名市多度町多度*, 桑名市長島町松ヶ島*, 桑名市中央町*, 木曾岬町西対海地*, いなべ市員弁町笠田新田*, いなべ市大安町丹生川久下*, 亀山市椿世町*, 亀山市関町木崎*, 津市河芸町浜田*, 津市安濃町東観音寺*					

【過去1年間に三重県内で震度1以上を観測した地震の月別回数表】

2021年		2022年									
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1	1	6	1	4	6	1	2	1	1	1	2

【深部低周波地震の観測状況】

領域 a (東海) では 16~24 日、26~27 日、30 日、領域 b (紀伊半島北部) では、1~5 日、9~10 日、13~15 日、領域 d (紀伊半島西部) では 1~3 日、8~10 日、14 日、18 日、20~21 日に深部低周波地震を観測しました。赤色が今期間に観測された深部低周波地震です。

※深部低周波地震はその地震波形の特徴から震源を精度良く求めることが難しく、震源が震央分布には表示されないことがあるため、実際はもっと数多く発生していると考えられます。

※図 5~図 8 では、震源の精度がやや劣る地震についても表示しています。

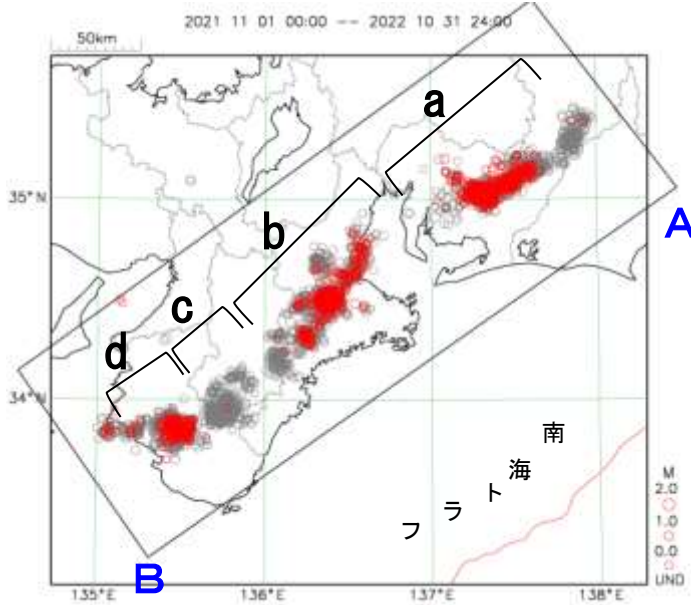


図 5. 過去 1 年間の深部低周波地震の震央分布図
(2021 年 11 月 1 日~2022 年 10 月 31 日)
2022 年 10 月に発生した地震を赤色で表示しています

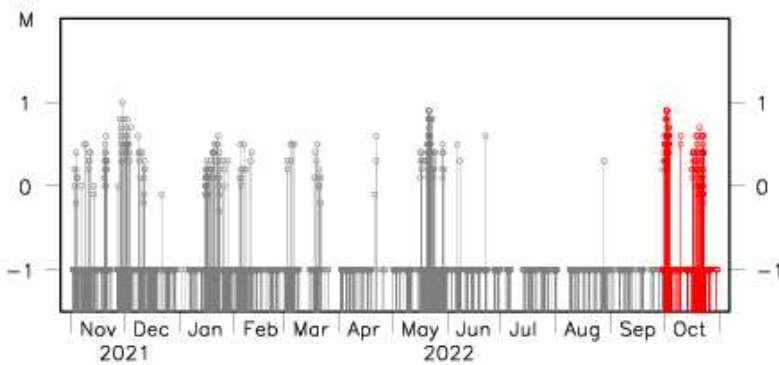


図 6. 図 1 の矩形内の M-T 図 (地震活動経過図)
2022 年 10 月に発生した地震を赤色で表示しています。
M が -1 以下や M が不明な地震は全て -1 としています。
黒線は回数積算を示しています。

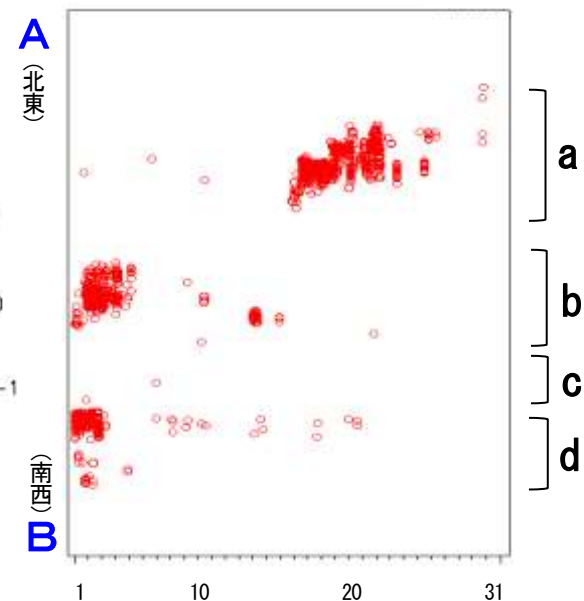
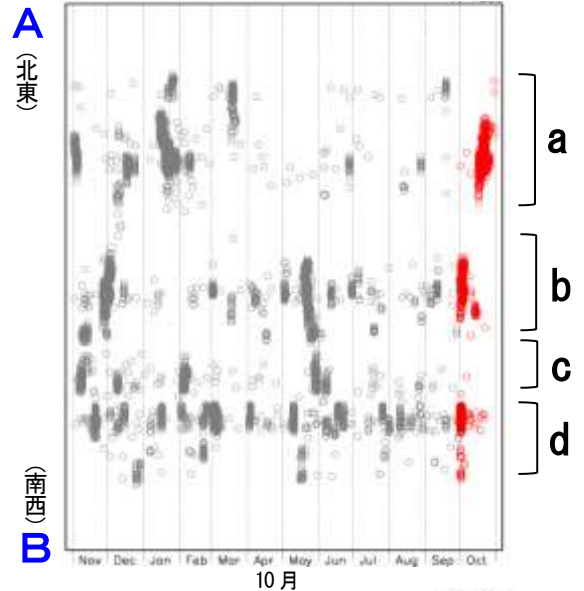


図 7(上) 過去 1 年間に発生した深部低周波地震の時空間分布図
縦軸：図 5 中の A-B を投影 (概ね北東-南西方向)
横軸：期間 (2021 年 11 月 1 日~2022 年 10 月 31 日)
図 8(下) 図 7 の今期間部分 (2022 年 10 月 1 日~10 月 31 日)

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

・資料についての問い合わせ先 津地方気象台 電話：059-228-6818 ・この地震活動図は津地方気象台ホームページ「三重県の気象・地震活動・気象速報など」に過去3ヶ月分掲載されています。アドレス：<https://www.data.jma.go.jp/tsu/overview/overview.html>



北海道・三陸沖後発地震注意情報の運用がはじまります

日本海溝・千島海溝周辺では、Mw（モーメントマグニチュード）7～8以上の巨大地震や、揺れが小さくても大きな津波を発生させる“津波地震”など、多様な地震が発生し、幾度も大きな被害を及ぼしてきました。今後も同様の事象が発生する可能性があります。

巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺で Mw7以上の地震が発生した場合には、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発信し、大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、後発地震への注意を促すこととなりました。令和4年12月16日12時より運用開始予定です。

防災対応は何をすればいいの？

- 先発の地震も含め、突発的に地震が発生した場合を想定し、日頃から地震への備え（事前防災対策）を徹底しましょう。
- 情報発信時は、社会経済活動を継続した上で必要な防災対応を実施してください。国や自治体からの事前避難のよびかけはしません。

【地震時に迅速な避難が必要な場合】
揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる体制の準備

すぐに避難できる体制での就寝

- ✓ すぐに逃げられる服装で就寝
- ✓ 子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝
- ✓ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用



非常持出品の常時携帯

- ✓ 準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く
- ✓ 身分証明書や貴重品を常時携帯
- ✓ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く



【地震によるリスクの高い場所がある場合】
想定されるリスクからの身の安全を確保する備え

揺れによる倒壊への備え

- ✓ 先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀等にはできるだけ近づかない



土砂災害等への注意

- ✓ 先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所にはできるだけ近づかない
- ✓ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える
- ✓ 地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、そのようなリスクのある区域であることを意識して、いつでも避難できるようにする



後発地震に注意し、誰もが実施すべき備え

緊急情報の取得体制の確保

- ✓ 携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく
- ✓ ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃生活する空間に配置



日頃からの備えの再確認

- ✓ 水や食料等の備蓄の再確認
- ✓ 避難場所・避難経路等の再確認
- ✓ 家族との連絡手段の再確認
- ✓ 家具の固定の再確認
- ✓ 自治会単位での訓練等での再確認 等



<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nceq/index.html>

気象庁 | 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震について